

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902641
法人名	株式会社 サンライフ
事業所名	サンライフ三春町
訪問調査日	2015年9月15日
評価確定日	2015年10月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902641	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	株式会社 サンライフ		
事業所名	サンライフ 三春町		
所在地	( 238-0014 ) 横須賀市三春町6-85-39		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年9月5日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者一人一人の歩んできた人生や生活環境を踏まえたうえでグループホームでの日々を送っていただき、我が家として生活して頂けるように心掛けています。ご入居者、ご家族の方に「施設に入ったから自由がないのは仕方ない」と思われないように個々に合わせたレクリエーション活動、食生活、趣味などを可能な限り支援していきます。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年9月15日	評価機関 評価決定日	平成27年10月30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは、株式会社サンライフの経営です。同法人は、このホームの外に横浜市青葉区にグループホーム1事業所を保有し、このホームの1階部分には、デイサービスの事業所を運営しています。このホームは、京浜急行の堀之内駅から徒歩10分の高台の住宅地の一角で、リビングから海を見渡せる眺望の良い場所にあり、2階建の建物の2階部分にある、1ユニットのホームです。

②法人の理念「サンシャイン・オブ・ライフ=太陽のように明るく」を踏まえて、このホームの管理者は、利用者が入居前の家庭と出来るだけ同じ生活をして、ご家族からも「ホームに入っても自由な生活をしている」と思われるようなホームを目指しています。管理者は、この家庭的な雰囲気を大切にしたいとの思いから、入居時には、本人・ご家族に、前以って、このホームの親しみある雰囲気を理解して頂いています。利用者には、食事の時間に融通を持たせ、食事のテーブルも4か所あり、利用者の好きな場所に座って頂いたり、入浴の日時も利用者の気分を尊重し、その気になったらいつでも入れる体制を維持しています。ご家族の面会時間も制限せず、いつ来て頂いても受け入れ、宿泊されるご家族もいます。職員は、10代から60代まで幅広い世代で構成され、若い管理者と経験豊かなケアマネジャーの連携の基、家庭的な明るい職場になっています。このホームは、開所以来10年を経過し、利用者の重度化も進み、ご家族や本人の要望に応えるため、利用者の我が家として、可能な限り、最後まで介護を続けることをホームの方針として確立しています。若い職員には、管理者・ケアマネジャーを中心に、職員の内部研修や十分な精神面のケアを行い、全職員が利用者を最後までお世話するとの共有の認識を持っています。

③近隣住民とは、地域の行事への参加や定期的な町内清掃への参加を通して、気軽に挨拶を交わす間柄で、デイサービスと共同で行う事業所の行事(餅つき・流しソーメン等)には、近隣の子供たちにも参加してもらっています。また、夜間、この周辺が暗いことから、地域の要望を受け入れ、夜間はホームの灯りをつけ、近隣住民から防犯上役立つと感謝されています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サンライフ三春町
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所の理念を共有し、地域の中での役割等を見出せるよう、常に模索しています。	法人の理念「シャンサイン・オブ・ライフ＝太陽のように明るい生活」を基に、管理者は、「利用者が、自由に我が家として生活頂ける」事を目指し、ご家族にも入居前にこのホームの親しみやすい雰囲気を理解して頂いています。10代から60代までの幅広い年齢層の職員もこの方針を理解し、共有しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入し、自治会が行っているイベントや定期的な町内清掃に参加し地域の皆様との交流を図っている。	自治会に加入し、自治会が行っている行事や定期的な町内清掃に参加すると共に、デイサービスと合同で行う事業所の行事（流しソーメン・餅つき等）には、近隣の子供たちにも参加してもらい、散歩の際には、挨拶を交わす間柄となり、地域の方々との交流に取り組んでいます。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所会議を通じ独居老人の対応について何度か話し合いをもちアドバイスをを行った。また、サンライフ三春町主催の介護講習会を検討している。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告を行い、地域の方との交流等について、協力して頂いていると共に昨年の評価を元にアドバイスを頂いている。	2カ月に1度、自治会代表・民生委員・ご家族等のメンバーで開催しています。ホームの活動報告や地域・ご家族の要望を聴く場にもなっています。会議にて夜間、周辺の住宅地が暗いので、ホームの照明を夜間も継続してほしいとか、ホームの避難経路を外部でも見えるよう掲示した方が良い等の要望・意見が出て、それに応え、防犯・防災対策に役立っています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員や福祉推進部の皆様に協力して頂いている。	市の福祉部指導監査課とは、必要に応じて連携を取り、助言等を受けています。市からの感染症対策等の研修の連絡もあり、職員が参加しています。横須賀市のグループホーム協議会を通して市職員とのやり取りもあります。協議会の中の有志の勉強会も設け、同業他社との交流もあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」が基本であるが、玄関の施錠については防犯上も踏まえ必ずしも常時開錠ではない。	「身体拘束は行わない」が基本であり、管理者は、人員配置を考えれば、拘束は避ける事が出来る事を、日常業務の場面で、職員に指導しています。玄関の施錠は、転落の危険を避けるために、又、防犯上も踏まえて常時、開錠にはしていません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	横須賀市が積極的に虐待関係の研修を行っている為、職員に参加を促し、積極的に参加するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用している方がいる為、制度を理解する環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会を活用し、説明を行う機会を設けている。また、面会へ来られた際等も含め、個別にご利用者様や家族様に関わる機会を設け対応している。介護報酬変更に伴い、料金変更を行っており、家族会を通じてご家族への説明会を実施。都合が合わず、参加の出来なかったご家族様に対しては、個別に説明を行い、理解・納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にはスタッフから積極的に声を掛けさせて頂いている。また、家族会や事業所会議等の機会を利用して頂き、ご意見・ご要望を話していただけるよう努めている。	ご家族には、入居時にホームの大切にしているこのホームの親しみやすい雰囲気や十分を理解頂いています。ご家族の来所は多く、面会時には職員から積極的に声を掛けて信頼関係を築いています。ご家族の要望を受け入れ、玄関での職員の顔写真入りの「スタッフ紹介」を掲示しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションをとり、スタッフ同士話しやすい環境を作り、ミーティング等を行う際は、提案事項や改善点等の有無を確認し、検討材料としている。	普段から管理者は職員とコミュニケーションを取り、必要な場合は個別に話し合う機会を積極的に取り、職員同士が話しやすい職場環境作りに取り組んでいます。毎月1度の職員会議では、提案事項や改善点の有無などを確認し、検討材料にしています。職場の雰囲気が良く、職員間の連携の良さを裏付けていました。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや、向上心として、現われているかは、不明な部分も多いですが、職場の環境整理や働きやすい職場になるよう努力しています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらい、研修で学んできた事を現場で活かすよう取り組んでいる。また、研修で学んできた事を職員間で共有できるよう、内部研修・勉強会も行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会は交流を図りながらの研修を積極的に実地しています。当事業所からも積極的に参加させて頂いている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報を大切にし、ご本人との交流を持ち、時間を掛けて信頼を得られるように心掛けています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の段階で一度に伺う情報量を抑え、数回に分けて情報収集を行うように心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族への連絡を密に行い、対応するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自己決定を尊重し、その時のご本人の状況や体調に合わせて1日を過ごして頂ける様、声掛けなど工夫をして努めています。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望を伺いながら、ご本人の状況を理解していただいた上で、ご家族に出来る家族としての役割を果たして頂けるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を作らずに、24時間いつでも面会可能としている。また、ご家族への連絡を密に行い、対応するようにしている。確認を行い、友人等の面会にも対応している。	面会時間は決めず、24時間いつでも面会可能にし、馴染みの人の来所を歓迎しています。ご近所からの利用者には、友人の面会に対応し、関係継続の支援をしています。ご家族の面会は多く、ご家族対応で買い物に出たり、馴染みの美容院に向いたりする利用者もいます。ご家族の中には、面会に来て泊って帰られる方もいます。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を指定しないなど関わる機会を考慮し、ご利用者様同士の交流が持てるようスタッフも間に入り、交流の場が出来るよう機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が、当施設内のサービスを利用していることもあり、定期的に連絡を取ったり足を運んで頂いたりと交流も持っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族等からの情報を参考にして今までの生活思考や価値観を把握するように努めている。また、本人の意思や希望を大切にしている。	入居時にご家族から詳しくお話を聞き、今までの生活や価値観（起床時間・タブーの言葉・話題とか）を可能な場合はセンター方式も利用し、利用者の思いを把握するようにしています。ホームの方針である、「利用者の自由な生活」を楽しんで頂けるよう出来るだけ利用者の意思や希望を実現できるよう取り組んでいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得ながら実地している。コミュニケーションを取りながらご本人らしさを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録にて日常の変化等の情報を共有するように心掛けている。カンファレンス等のミーティングでも確認するようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成のツールとしてセンター方式を利用している。また、ご家族の意見、希望も確認しながら作成している。ミーティング時に入居者様一人一人の現状情報を共有し、参考になっている。	介護計画作成のツールとしてセンター方式を利用しています。毎月の職員会議にてケース会議も行い、利用者の一人ひとりの現状を共有しています。介護計画は、基本3カ月に一度、職員の意見やご家族の意見・希望を確認しながら見直し、都度利用者・ご家族に説明を行い、同意を得ています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを用いての記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを受け止め、また実現に向けたアプローチを行い、可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生との触れ合いやレクリエーションの協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はホームドクターであるが、ご家族の希望がある場合は対応している。急変時には救急対応となるが、24時間ホームドクターへの連絡は可能となっている。	基本は、ホームドクターが主治医ですが、ご家族の希望がある場合は、それに対応しています。ホームドクターは毎月2回往診があり、24時間対応で連絡可能としています。外科・精神科等に出向く場合は、定期診断以外は職員がご家族と一緒に同行しています。必要時には、1階のデイの看護師が来訪するメリットがあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	密に連携を取り、状況に応じて医療機関の受診に対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は極力情報交換を行い、早期退院に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望に沿うことができるように話し合い、共有できる方針を見出しています。急変時などは、主治医と密に連絡を取れる環境を作っている。また、看取り介護となる場合は主治医立会いの元、三者で意思の確認や説明を行っている。	開所後10年を超え、利用者の重度化が進み、ご家族の希望に沿えるよう話し合い、共有できる方向性を見出しています。ホームの方針として、終末期を利用者にとって「我が家」であるホームで過ごして頂く事を掲げ、看取り介護の体制を構築しています。主治医・ご家族・ホームの三者で意思の確認や説明を行い、看取り介護に臨んでいます。職員の精神的ケアにも配慮され、職員間にも共通認識を確立しています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に普通、上級救命の講習に参加してもらい緊急時に対応できるようにしています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設の防災訓練、避難訓練には地域の方にも参加して頂き、地域の防災訓練にも入居者とスタッフで参加させて頂いている。防火対策として、スプリンクラーを設置。火災が発生した場合、早急な救助活動が行えるよう自治体や地域の方々へ当施設の見取り図や避難経路を配布予定。	ホームの防災・避難訓練には、地域の方々にも参加して頂いています。地域の防災訓練にも利用者と職員が参加して連携を密にしています。地域より、災害時早急な救助活動が行えるようホームの見取り図や避難経路をホームの外に掲示してはとの提案があり、作成中で出来上がれば、掲示・配布予定です。水・介護食の備蓄もしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ間で入居者様一人一人の人格を把握した上で適切な言葉かけや対応が出来るよう話し合い、考察を行っている。しかし、信頼関係を築いた上でのコミュニケーションを図るとき、声掛けに課題はみられている状況である。	職員間で利用者一人ひとりの人格・性格を把握した上で、親しみのある適切な言葉掛けや対応が出来るよう話し合い、利用者との信頼関係の確立に取り組んでいます。信頼関係を築いた上でのコミュニケーションの際、時には職員の声掛けに課題も見られ、都度注意を喚起しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が気兼ねなく意見や希望をお話して頂ける環境になるよう、コミュニケーションを取り、努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその人らしさを把握し、常に尊重できるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定など、ご本人の思いを尊重している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に調理をすることは困難になってきているが、調理の下準備や、下膳、メニューを一緒に決めたりと可能な範囲で参加していただいている。また、外食の希望なども確認し、実施している。	ホーム独自のメニュー作成・手作りを基本として、一部業者の食材・介護食を利用しています。重度化に伴い、利用者と共に調理するのが難しくなっていますが、出来る範囲で下準備、下膳等に参加してもらっています。食事時間や食事のテーブル等柔軟に対応し、利用者の希望に沿っています。外食が難しくなり、お寿司やラーメン等の出前やテイクアウトも活用しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の機能レベルに合った食事形態を確立し、また、変化に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、ご自身で行えるご利用者様は毎食後に実施して頂き、介助の必要なご利用者様は介助にて口腔ケアを行い介護記録にて記録している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や経過記録を参考にし、パターンの把握に努めている。また、入居者様一人一人のADLを確認、残存機能を把握した上で、最善の方法を検討している。	排泄チェック表や経過記録を参考にし、利用者毎に排泄パターンの把握に取り組んでいます。利用者一人ひとりのADLを確認、残存機能を把握した上で、排泄の自立をできるだけ継続出来るよう最善の方法を検討しています。日中はリハビリパンツの方が多い。トイレ介助は、同性介助も配慮します。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食べ物を工夫している。また、体操などを行い、適度な運動も可能な範囲で参加して頂き、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自由に入れるという環境を作るために、曜日や時間を決めていない。強要ではなくご本人の意思を考え、入浴していただいている。	利用者の意向を尊重するべく、強要ではなくご本人の意思に従い入浴して頂く事を基本にし、お湯の温度や入浴の時間帯等利用者の希望に応じています。自由にいつでも入浴出来るという環境を維持する為、入浴の曜日や時間を決めていません。入浴嫌いの利用者には、散歩で汗ばんだ時に声掛けする等の工夫により入浴を支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	過去の情報を参考にしながら対応している。また、不眠の方へはミーティング等で対応の検討をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している。特に誤薬事故がないように薬の変更などがあった場合はミーティング時や業務日誌にて申し送りを行い、誤薬事故の無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人から直接伺ったり、ご家族からの情報を元に一人一人に合った生きがいを見出すように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、散歩等の外出の機会を可能な限り持ち、楽しみのある生活を送って頂けるよう工夫している。また、入居者様一人一人の趣味や好みを把握した上で個別のアクティビティも実施している。	外出は、男性と女性の利用者の好みの違いに配慮し、釣りなどは男性利用者を、お花の観賞などは女性利用者という具合にドライブや外出機会を持ち、楽しみある生活になるよう工夫しています。初詣や近くの公園での桜や藤の見物にも出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得ながら実地している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はほとんどありませんが、電話については支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化のリスクを考え、大掛かりに変化を与えず、テーブルの配置を工夫したり、季節感を感じられるような装飾を怠らないようにしている。	リビングの窓から海が見え、気候の良い時期には窓際に椅子を寄せ、お茶をする時間を持つ等、環境を活かした楽しい生活の工夫をしています。食事の際は、テーブルの配置を工夫して、利用者が自由に座って食事できるように配慮しています。また、季節ごとの装飾や行事の際の写真を掲示し、季節感や生活感を取り入れています。外出が難しくなった利用者を考慮し、毎朝、運動を兼ねてリビングでの体操を日課としています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	オープンスペースを活用し、いつでもコミュニケーションが取れるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み物を制限せず（火の出るものなど危険物を除く）、ご本人の使い慣れたもの使えるようにご家族の協力を得ながら実施している。	利用者には、持ち込みの家具・備品を制限せず、本人の使い慣れた物が使用できるようご家族の協力を得ながら実施しています。仏壇やタンス・テレビ等自由に持ち込んでもらっています。寝具についても、ベッド・布団どちらでも本人の選択に任せ、居心地良く過ごせるよう配慮しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には本人の似顔絵やトイレにはトイレと分かるように記している。			

目 標 達 成 計 画

事業所

サンライフ三春町

作成日

2015年9月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	重度化、看取り介護が増加している為、急変が多くなっている。	スタッフ一人一人の医療知識（医療行為を除く）を向上させて、緊急時に適切な対応が出来るようにする。	病気に対する知識（症状や適切な対応）や救急救命講習を受けていない者には受けてもらう。又、全スタッフが利用者様一人一人のバイタル等基準値を把握しているようにする	2年
2		介護未経験者スタッフを積極的に採用しており、その為、スタッフの知識や技術に大きな差がある。ケアの判断が出来ないスタッフがいる。	スタッフによってケアの質や判断に差が出ないようにし、安定的なサービスを提供する。	スタッフ一人一人、足りない部分を把握し、徹底して教育していく。又、可能な限り、外部研修にも参加してもらい知識、技術の向上を図る。	3年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。